

「放射線測定値」は、どう読み取ればいいのですか？ ②

原発事故に伴い、先に「『放射線測定値』は、どう読み取ればいいのですか？ ①（HP「雑学 BN」の随想等関係（Ⅷ）、2011.07.09.：参照）」を掲載した。

更に「どう読めばいいのか」の数値の一つに、文科省からの校庭等の屋外の放射線量暫定基準値として1時間あたり、3.8マイクロシーベルト（ $\mu$  Sv）があるが、その根拠、計算式についての説明を目にしたことはない。

原発安全神話が崩壊した今、この文科省からの数値とて鵜呑みにする訳にはいかず、また、数値に右往左往しないように自分で判断し納得するしかないように思う。

そこで、自分の知りうる情報から、次のように試算してみた。

国際的に避難をするのが望ましいとされる場所の年間累積放射線量は20ミリシーベルト（mSv）～100（mSv）（逆に言えば、20（mSv）以下は一応安全値ということか？）。

一日の被爆放射線量は、 $20 \text{ (mSv)} \div 365 \text{ 日/年} = 54.79 \text{ (}\mu \text{ Sv)} / \text{日}$ となる。

木造屋内の放射線量は、屋外の4割に減少することから一時間の放射線量を a と仮定すると、

$54.79 \text{ (}\mu \text{ Sv)} = a \times 0.4 \times 16 \text{ 時間/屋内/日} + a \times 8 \text{ 時間/屋外/日}$ の計算式となり、 $a = 3.8 \text{ (}\mu \text{ Sv)} / \text{時}$ となる。

文科省の数値と同じになったというか、文科省もこの根拠、計算法によるものだったのか？分からない。

この側面に詳しい方は、自分のこの根拠、計算法でいいのかどうか、教えてください。

ただ、この根拠、計算法はあくまで外部被爆線量だけを見ているように思われ、食物からの内部被爆のことを考慮すると、この基準値は甘いというか、緩いように思う。だから文科省は、「暫定」と断っているのだろうか？

さて、最近宮城県でも牛肉の汚染が確認されたが、汚染した稲わらを餌とした汚染牛肉の問題が連日マスコミを賑わしているが、この問題に関連した数値もさっぱり解らない。

1年間その放射能濃度の水や食物を摂取し続けた時に内部被爆の暫定基準値線量は5mSv以下で、牛肉では500ベクレル/1kg以下とか。

牛肉1kgを食べ続ける人なんていませんよね。もっと身近に理解できる数値で説明してもらいたいですよね。

どなたか、この食物による内部被爆線量値について、分かり易く教えてくださいませんか。